神奈川県の経済情勢報告

令和８年11月５日
財務省関東財務局
横浜財務事務所

※掲載した経済指標等については速報値を含む。

1. 総論

【総括判断】「県内経済は、緩やかに回復しつつある」

項　目	前回（8 年 7 月判断）	今回（8 年 10 月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに回復しつつある	**緩やかに回復しつつある**	→

（注）8 年 10 月判断は、前回 8 年 7 月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、回復している。生産活動は、持ち直している。雇用情勢は、持ち直しのテンポが緩やかになっている。

【各項目の判断】

項　目	前回（8 年 7 月判断）	今回（8 年 10 月判断）	前回比較
個人消費	回復している	**回復している**	→
生産活動	緩やかに持ち直している	**持ち直している**	↗
雇用情勢	持ち直しのテンポが緩やかになっている	**持ち直しのテンポが緩やかになっている**	→
設備投資	8 年度は増加見込みとなっている（全規模・全産業）	**8 年度は増加見込みとなっている（全規模・全産業）**	→
企業収益	8 年度は増益見込みとなっている（全規模）	**8 年度は増益見込みとなっている（全規模）**	→
企業の景況感	「下降」超に転じる（全規模・全産業）	**「上昇」超に転じる（全規模・全産業）**	↗
住宅建設	前年を上回っている	**前年を下回っている**	↘
公共事業	前年を上回っている	**前年を上回っている**	→

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果が緩やかな回復を支えることが期待されるものの、中東情勢や自然災害の影響を注視する必要がある。また、金融資本市場の変動の影響などに注意する必要がある。

2. 各論

■　個人消費　「回復している」

百貨店、家電、ドラッグストア、ホームセンターの各販売額は、前年を上回っている。スーパー、コンビニエンスストアは横ばいとなっている。新車登録届出台数は、前年を上回っている。このほか、宿泊などは緩やかに回復している。このことから、個人消費は、回復している。

（主なヒアリング結果）

- ➢ 富裕層の消費行動は引き続き強く、当店の売上げを支えている。ラグジュアリーブランドもどんどん値上がりしているが、富裕層は価格に関係なく購入している。（百貨店）
- ➢ 天候不順による客足の鈍化があったものの、ポイント還元施策が下支えとなり、売上高は前年同月比で辛うじてプラスを維持した。消費者の物価高への警戒感は引き続き強く、今後も物価動向が見通せないことから、基本的には節約志向が続くと見ている。（スーパー）
- ➢ 天候不順の影響により売上高、客数ともに想定を下回っているものの、品質の良いものは引き続き売行きが好調なので、消費志向が落ち込んでいるわけではないと考えている。（コンビニエンスストア）
- ➢ 天候不順に加え、前期に中東情勢の影響による石油由来製品の買占めが需要を先食いしたことから、売上高はやや低調な推移となった。（ドラッグストア）
- ➢ 雨が続いたことによる外出の敬遠・交通機関の運行停止・営業時間短縮により、売上高・客数ともに前年同月を下回った。（専門店）
- ➢ 物価高を背景とした販売価格上昇により客単価は上昇し、売上高も増加傾向。海外旅行については、燃油サーチャージの高騰が需要の下押し要因ではあるものの、円安を背景とした海外旅行離れは法人・個人問わず見られない。（旅行）
- ➢ 客室稼働率が前年同月比で上昇していることに加えて、レストランの売上も好調。（宿泊）
- ➢ 円安を追い風にインバウンド需要が非常に旺盛であり、利用者が増加している。（運輸）

■ 生産活動「持ち直している」

生産を業種別にみると、食料品・飲料が減少したものの、化学及び輸送機械、生産用機械が増加していることから、生産活動は、持ち直している。

（主なヒアリング結果）

- ➢ 今期の生産量は、対前年同期比で増加。自動車向け製品の生産量は、完成車メーカーの生産回復を背景に前年同期を上回って推移していることに加えて、データセンターや通信設備向け製品の受注が引き続き堅調である。（電気機械）
- ➢ 半導体製造装置の受注が好調のため、生産量は増加。特にロジック・メモリ向けが伸びている。（生産用機械）
- ➢ 生産量は前年同期を上回って推移しており、スキンケア用品やメイクアップ用品等の需要も堅調を維持。（化学）
- ➢ 新型車投入効果等により、今期の生産台数は前年同期比 110%程度と増加している。（輸送機械）
- ➢ 原材料価格高騰による大型ペットボトル製品の生産縮小や、夏場の気温低下による需要減少を背景に、生産量は前年同期比で減少となった。（食料品）

■ 雇用情勢 「持ち直しのテンポが緩やかになっている」

雇用保険受給者実人員は前年を上回っているものの、有効求人倍率、新規求人数は横ばいとなっていることから、雇用情勢は、持ち直しのテンポが緩やかになっている。

（主なヒアリング結果）

- ➢ 近年、大卒においては理系学生の採用が難しくなっており、特に当社業務に関係する分野の研究を行ってきた学生は採用競争が激化しているところ。（製造）
- ➢ 建設現場の作業員は人手不足が深刻な状況となっている。（建設）

■ 設備投資 「8 年度は増加見込みとなっている」（全規模・全産業）「法人企業景気予測調査」8 年 7-9 月期

○ 8 年度の設備投資計画額をみると、全規模・全産業で前年度比 12.5%の増加見込みとなっている。業種別にみると、製造業は同 16.8%の増加見込み、非製造業は同 6.9%の増加見込みとなっている。

■ 企業収益 「8 年度は増益見込みとなっている」（全規模）「法人企業景気予測調査」8 年 7-9 月期

○ 8 年度の経常利益（除く「電気・ガス・水道業」、「金融業、保険業」）をみると、全規模で前年度比 30.4%の増益見込みとなっている。業種別にみると、製造業は同 36.4%の増益見込み、非製造業は同 7.9%の増益見込みとなっている。

■ 企業の景況感 「『上昇』超に転じる」（全規模・全産業）「法人企業景気予測調査」8 年 7-9 月期

○ 企業の景況判断 BSI をみると、大企業は均衡から「上昇」超となり、中堅企業は「上昇」超に転じ、中小企業は「下降」超幅が縮小している。

■ 住宅建設 「前年を下回っている」

○ 新設住宅着工戸数をみると、分譲住宅が前年を上回っているものの、持家、貸家が前年を下回っていることから、全体で前年を下回っている。

■ 公共事業 「前年を上回っている」

○ 公共工事前払保証請負金額をみると、前年を上回っている。

神奈川県の経済情勢報告

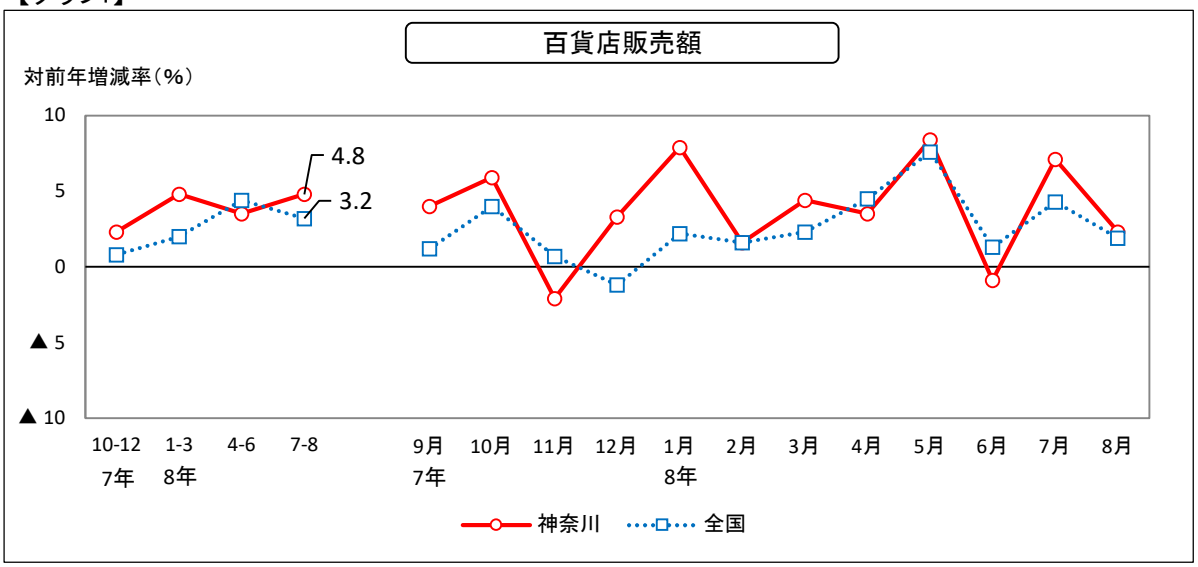
資　料　編

※掲載した経済指標等については速報値を含む。

1.個人消費

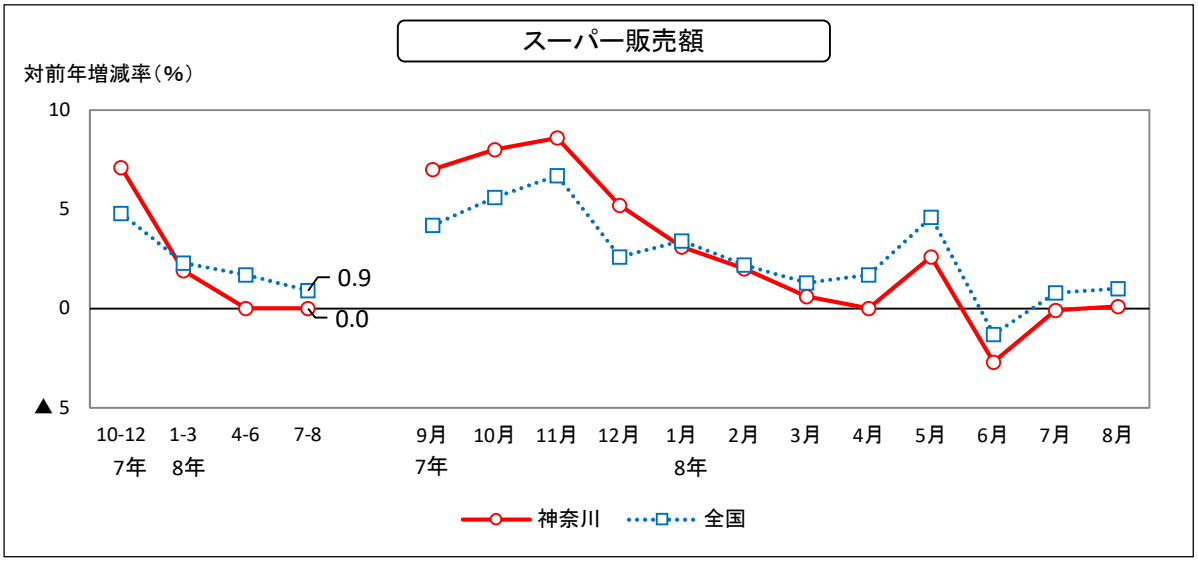
回復している

【グラフ1】



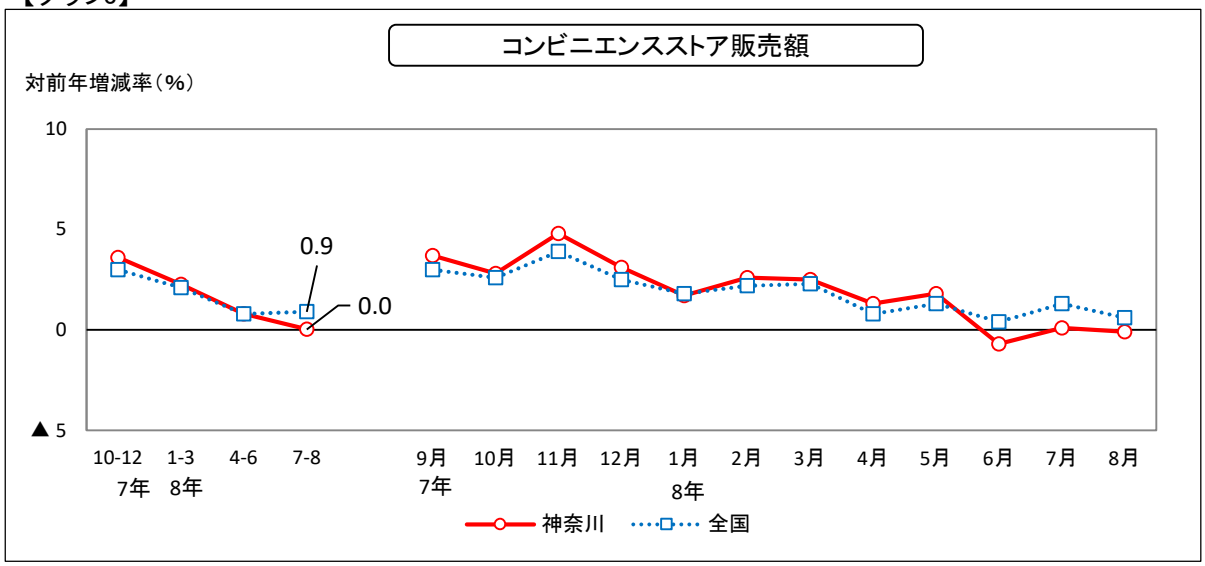
（注）全店ベース、令和8年7-8月期は当局試算である。　【経済産業省】

【グラフ2】



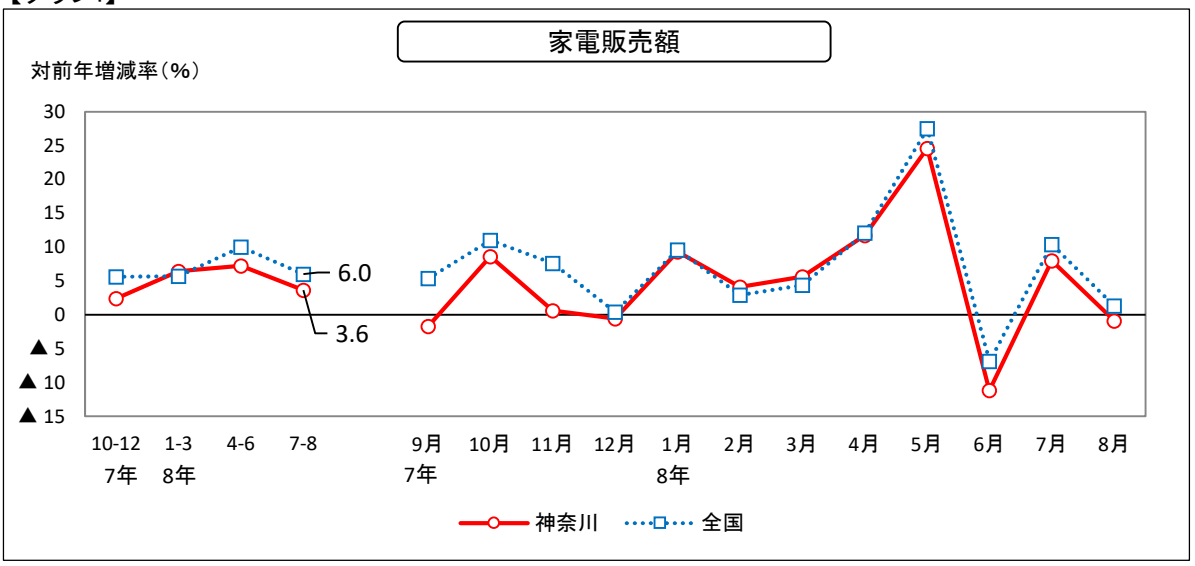
（注）全店ベース、令和8年7-8月期は当局試算である。　【経済産業省】

【グラフ3】



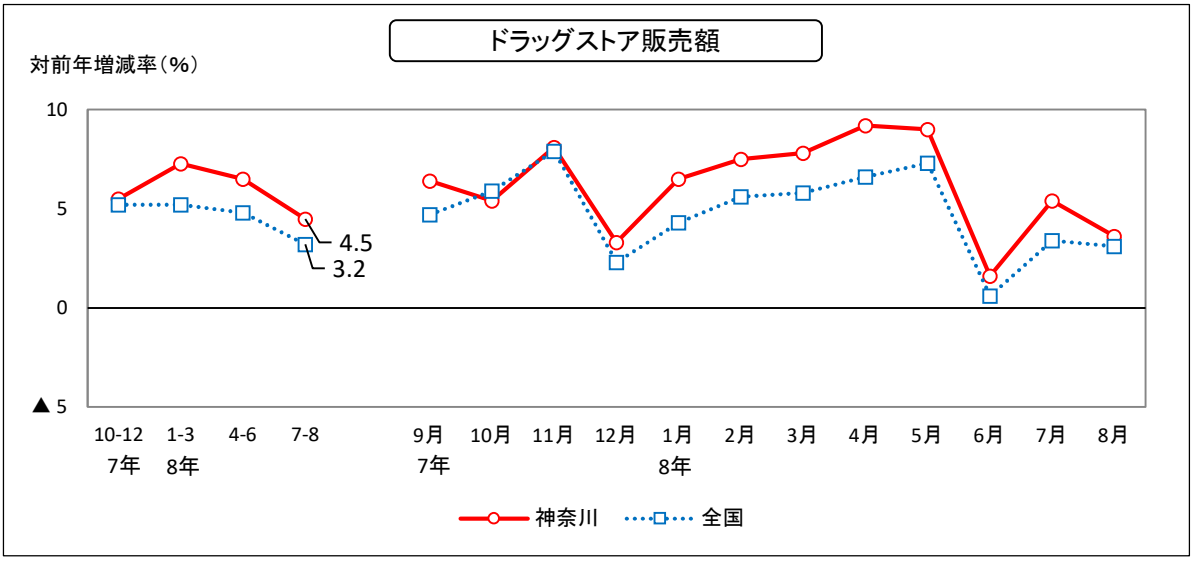
（注）全店ベース、令和8年7-8月期は当局試算である。　【経済産業省】

【グラフ4】



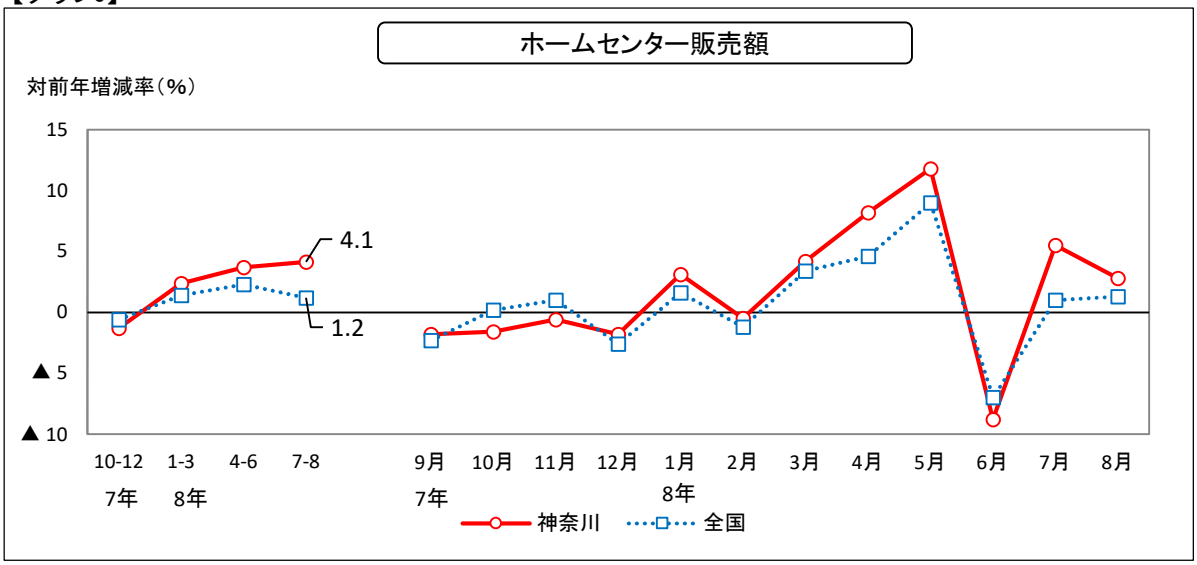
（注）全店ベース、令和8年7-8月期は当局試算である。　【経済産業省】

【グラフ5】



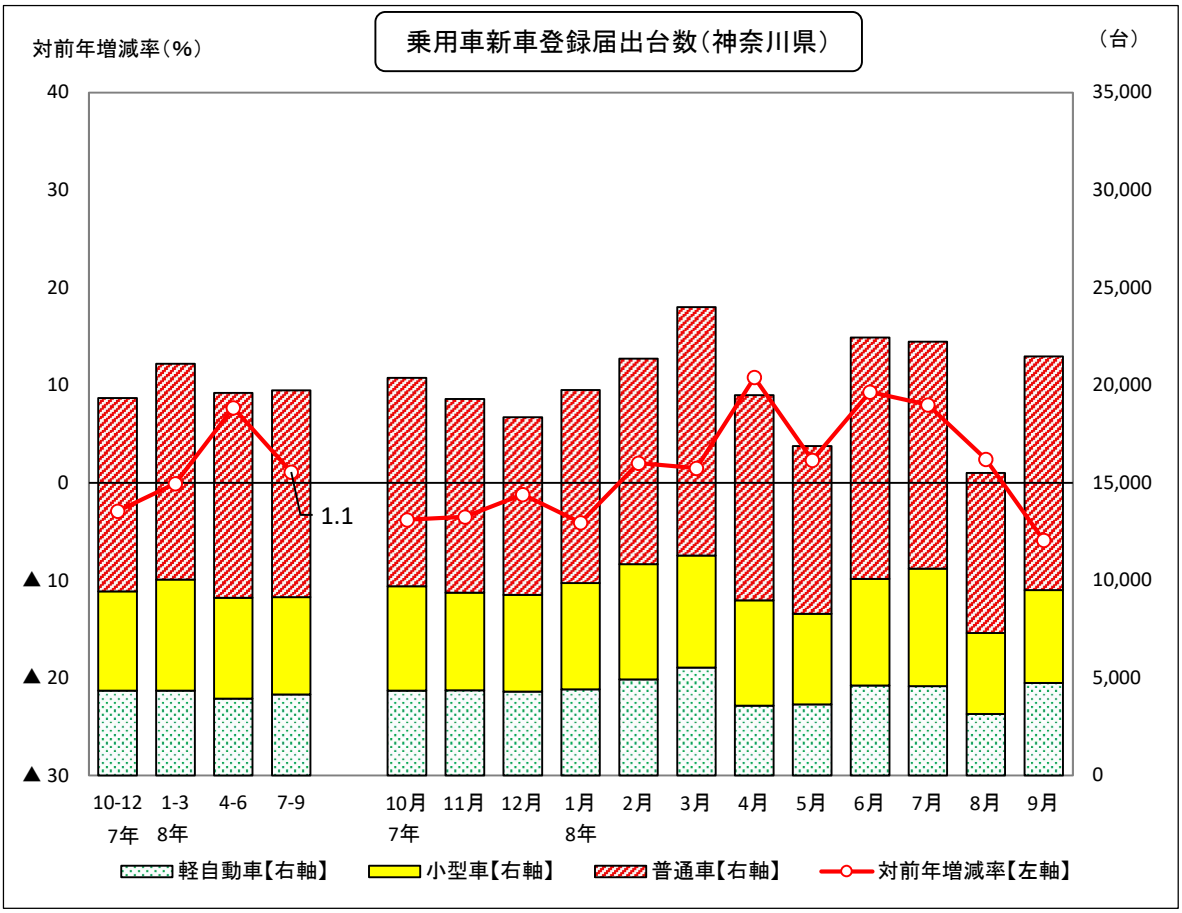
（注）全店ベース、令和8年7-8月期は当局試算である。　【経済産業省】

【グラフ6】



（注）全店ベース、令和8年7-8月期は当局試算である。　【経済産業省】

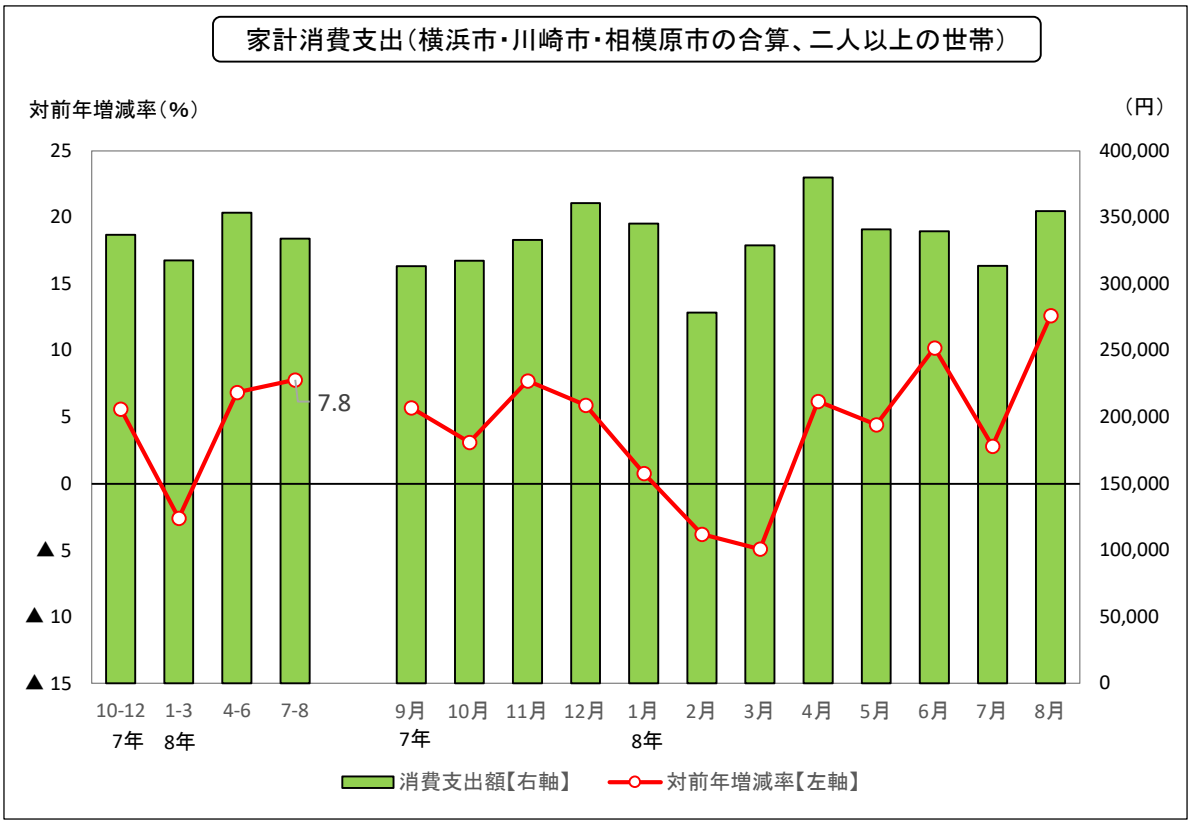
【グラフ7】



（注）四半期は当局試算である。

【日本自動車販売協会連合会・全国軽自動車協会連合会】

【参考】



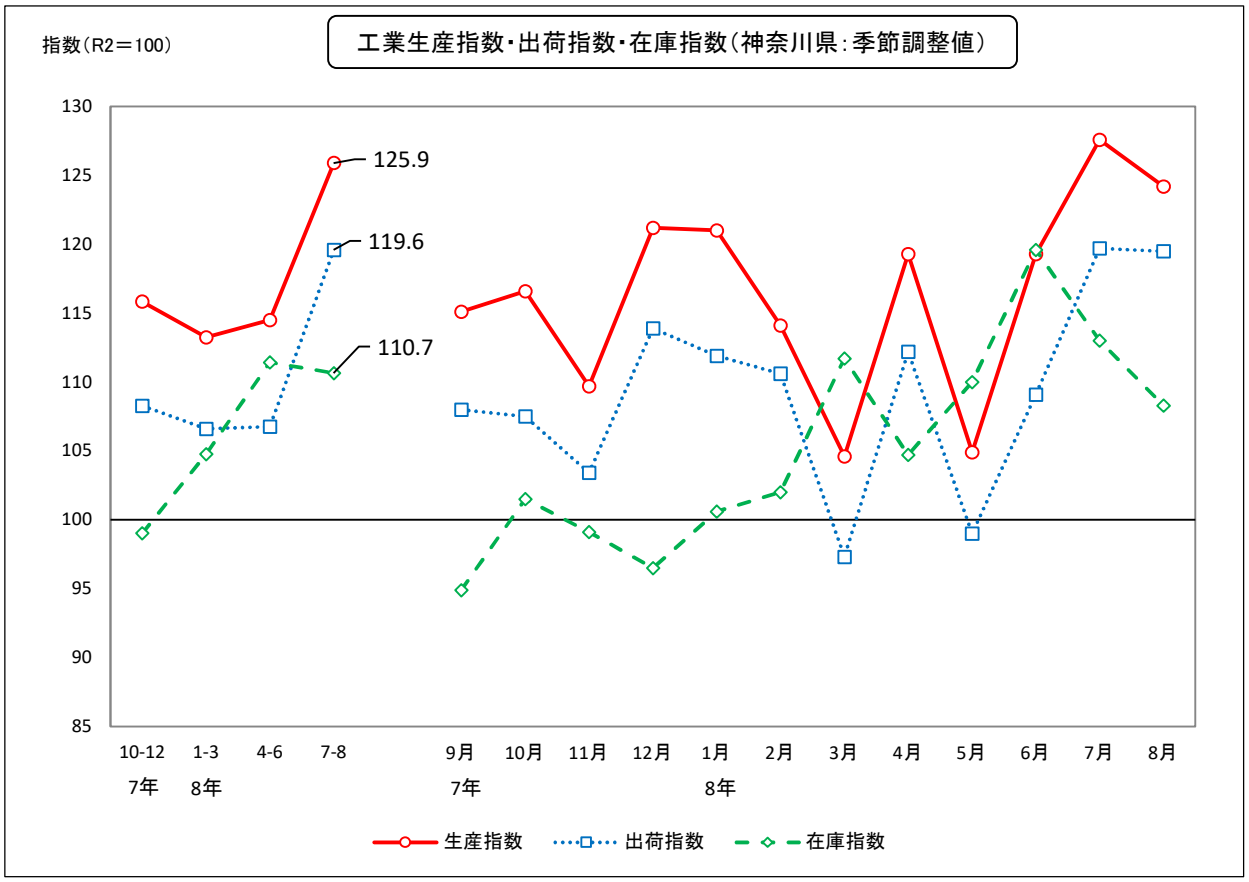
（注）「家計調査」（総務省統計局）をもとに当局作成、農林漁家世帯を含む。

【総務省統計局】

2.生産活動

持ち直している

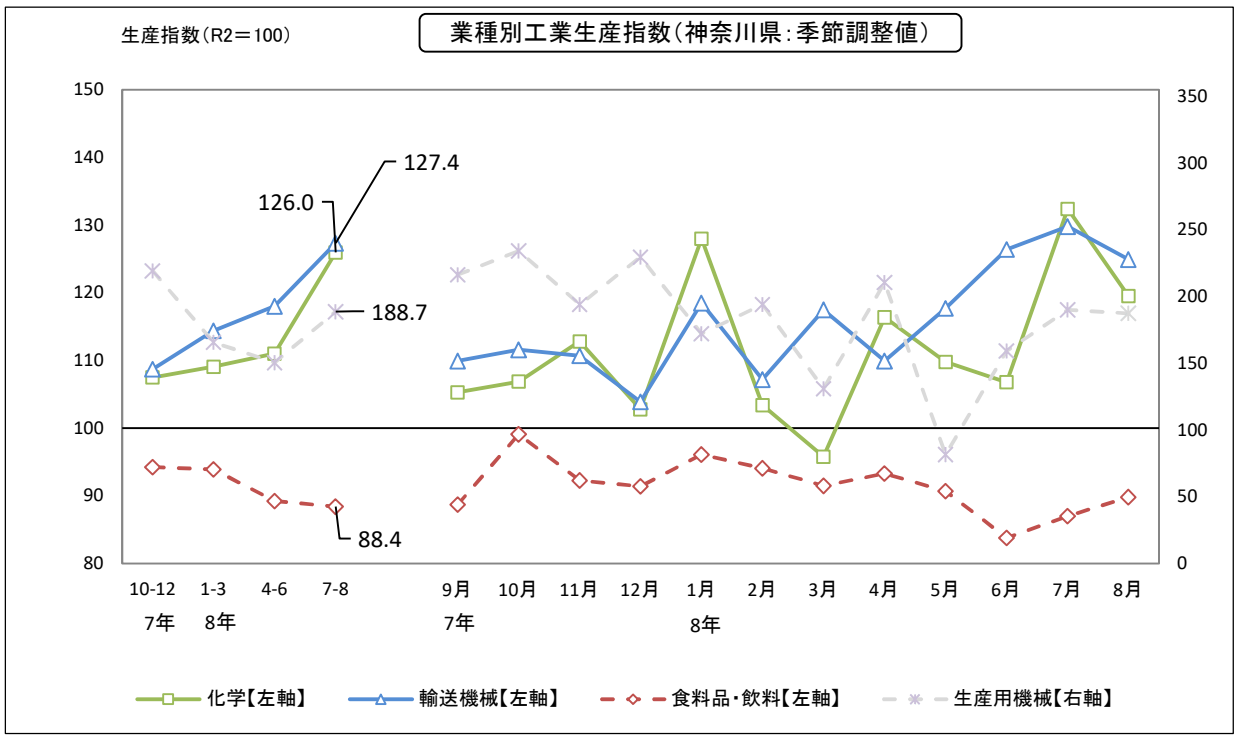
【グラフ8】



（注）四半期は当局試算である。

【神奈川県】

【グラフ9】



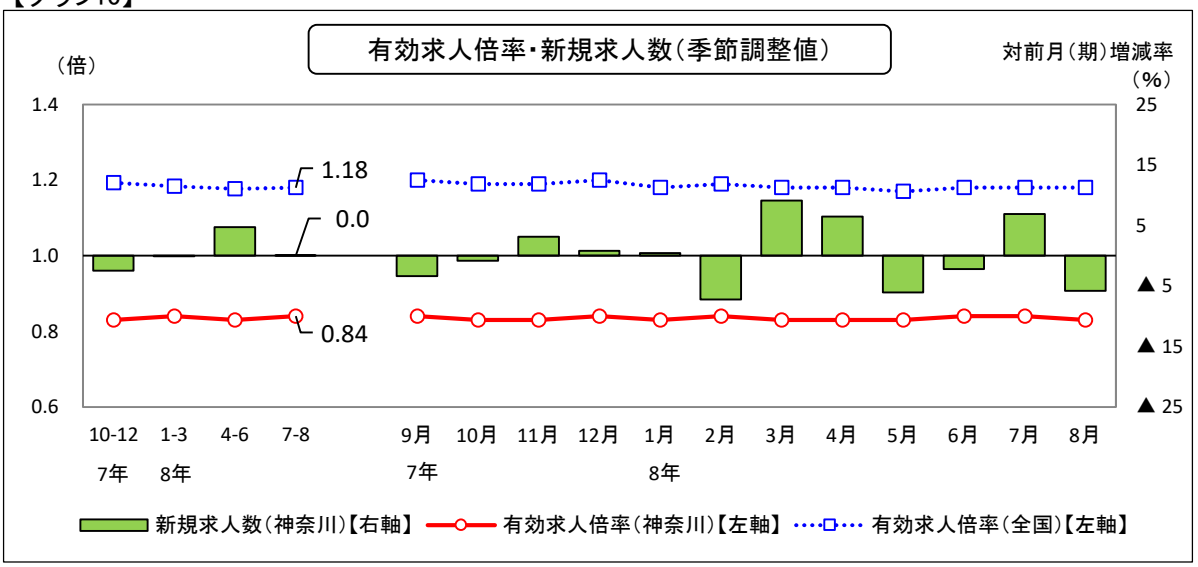
（注）四半期は当局試算である。

【神奈川県】

3.雇用情勢

持ち直しのテンポが緩やかになっている

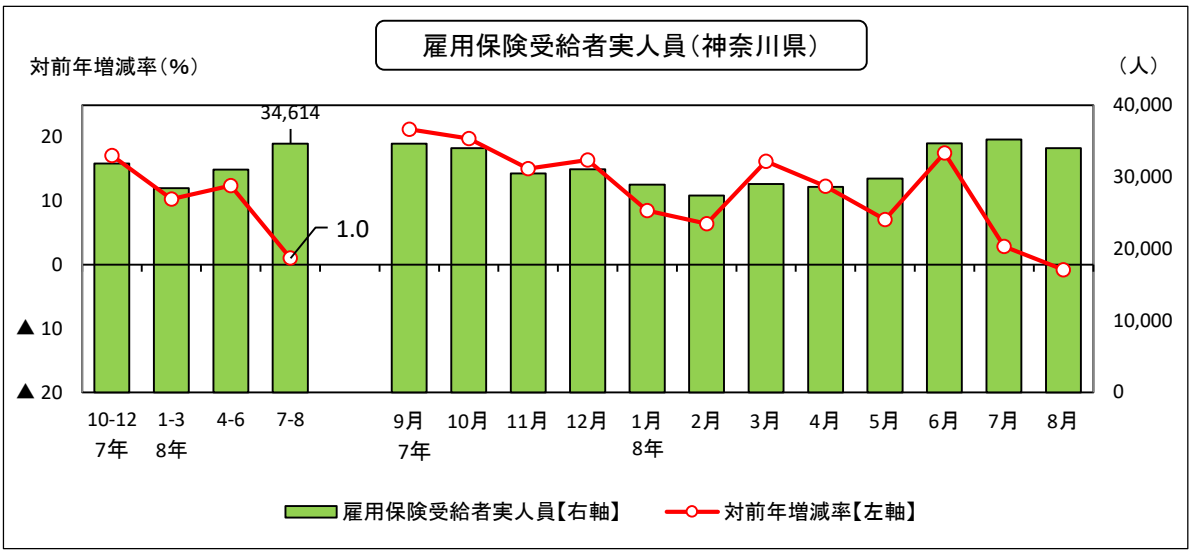
【グラフ10】



（注）1.パートを含む。 2.四半期は当局試算である。

【厚生労働省】

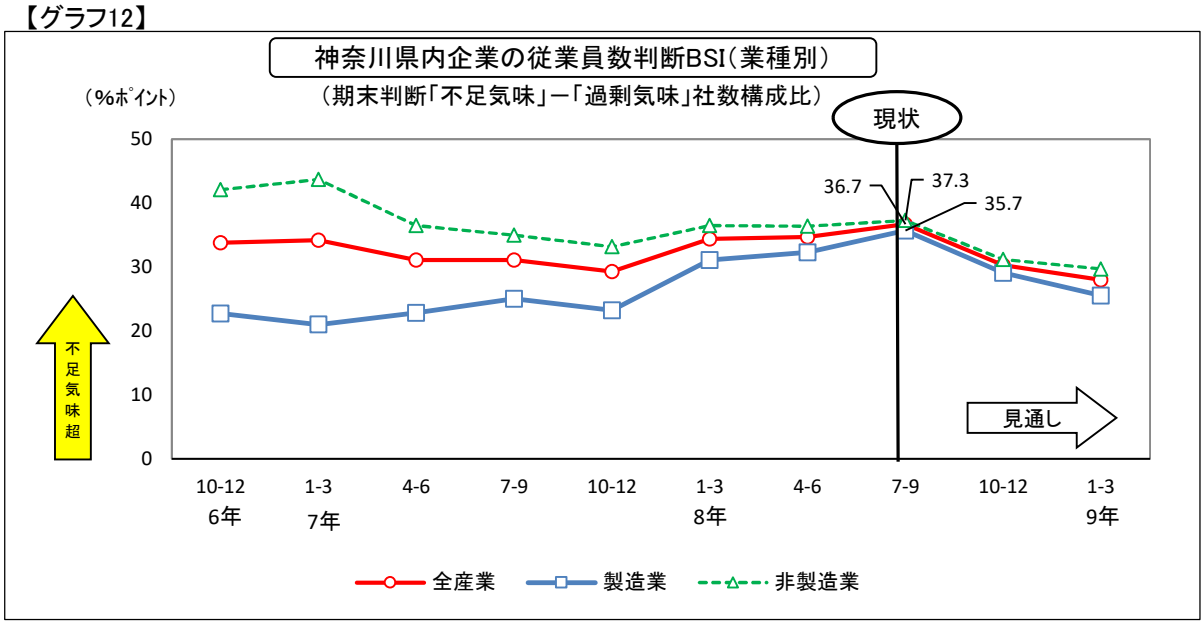
【グラフ11】



（注）四半期は当局試算である。

【神奈川労働局】

【グラフ12】

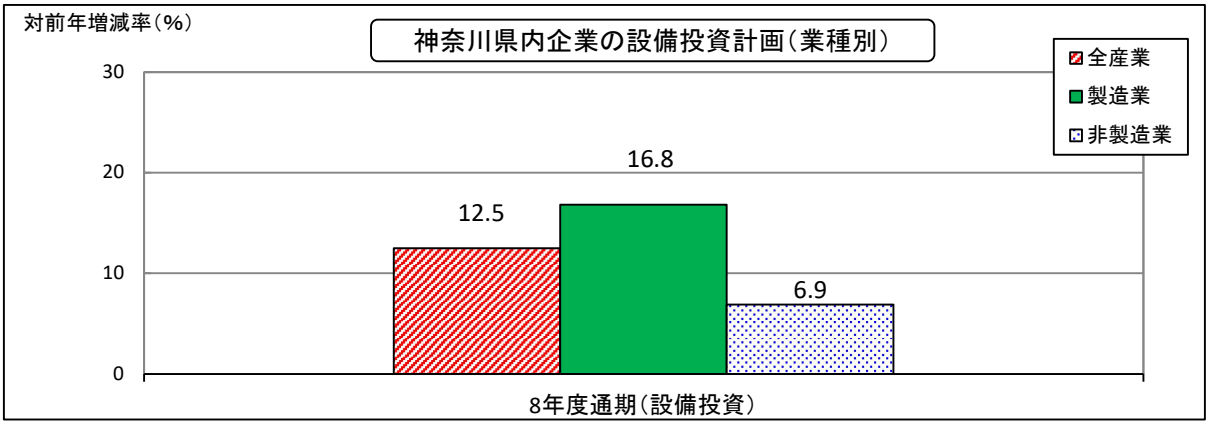


【横浜財務事務所（法人企業景気予測調査（8年7～9月期調査））】

4.設備投資

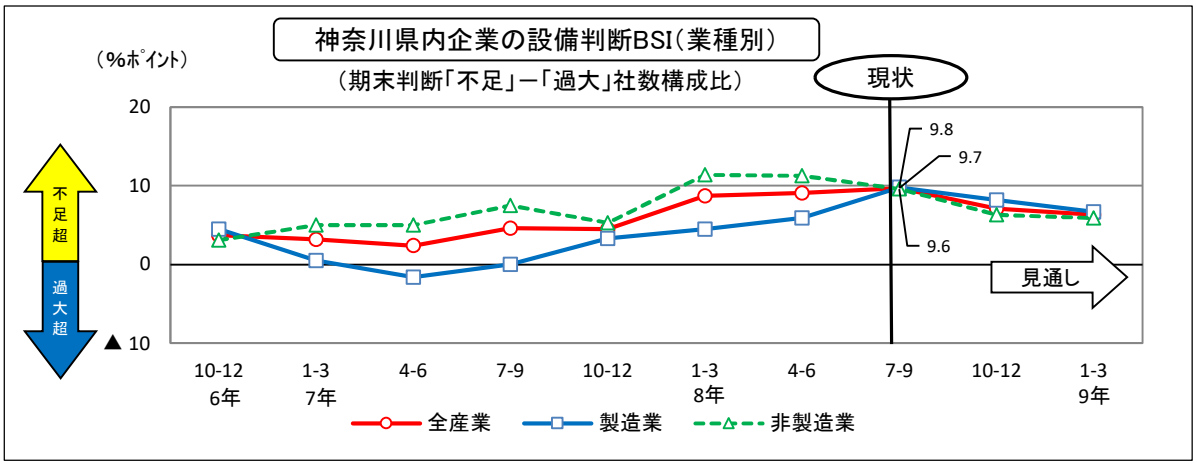
8年度は増加見込みとなっている（全規模・全産業）

【グラフ13】



【横浜財務事務所（法人企業景気予測調査（8年7～9月期調査））】

【グラフ14】

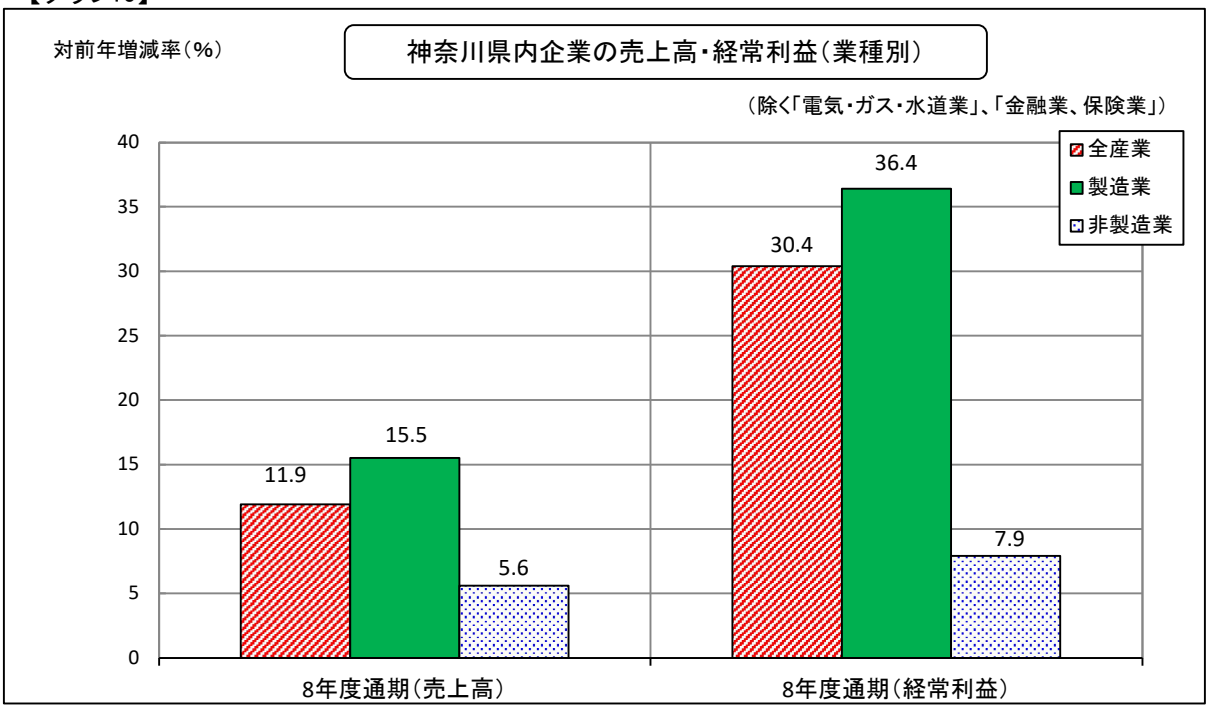


【横浜財務事務所（法人企業景気予測調査（8年7～9月期調査））】

5.企業収益

8年度は増益見込みとなっている（全規模）

【グラフ15】

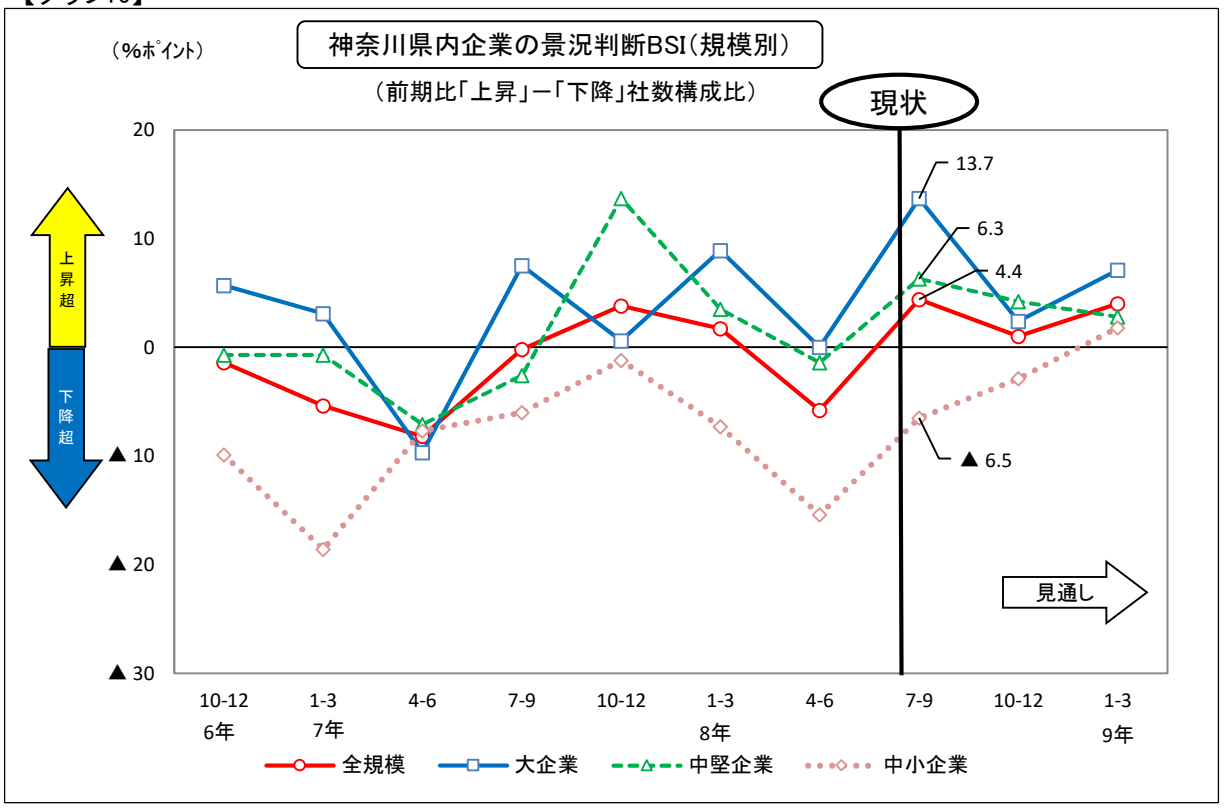


【横浜財務事務所（法人企業景気予測調査（8年7～9月期調査））】

6.企業の景況感

「上昇」超に転じる（全規模・全産業）

【グラフ16】

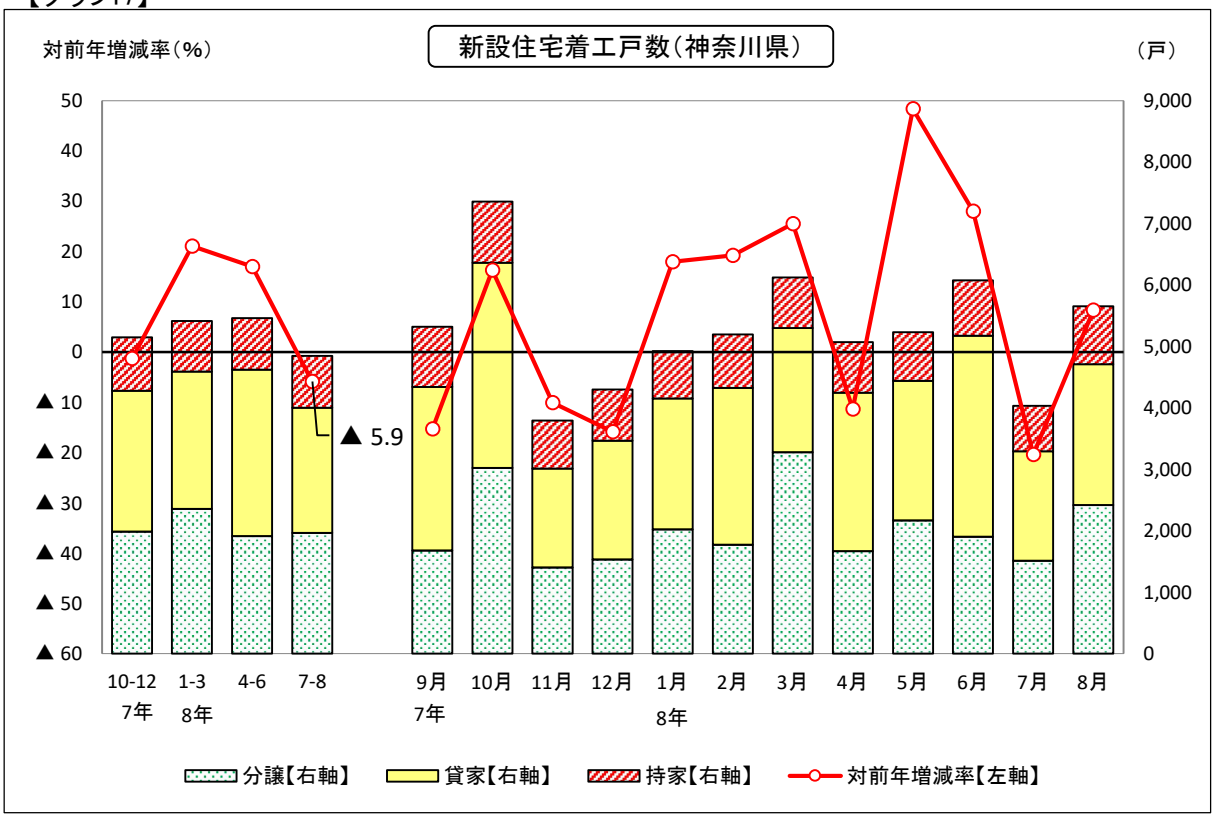


【横浜財務事務所（法人企業景気予測調査（8年7～9月期調査））】

7.住宅建設

前年を下回っている

【グラフ17】



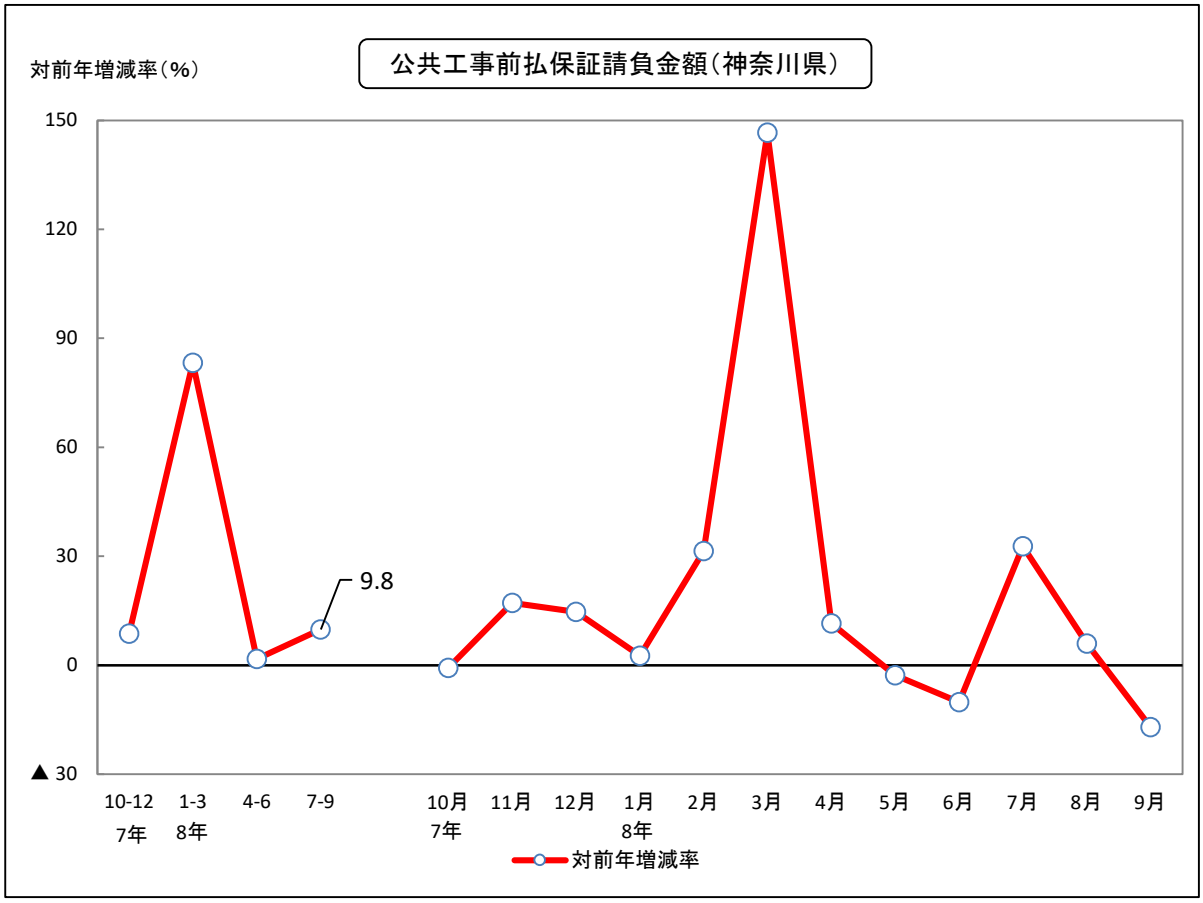
（注）1.対前年増減率には給与住宅を含む。2.四半期は当局試算である。

【国土交通省】

8.公共事業

前年を上回っている

【グラフ18】



（注）四半期は当局試算である。

【東日本建設業保証㈱他】